

# Off Campus Times

## 目次

編集部より	1
第2タームプログラム実施報告	2
プログラムの概要	3
学外学修センターからのお知らせ	4
学外学修センター利用案内	4

## 編集部より

未だにコロナ禍が続いていますが、過去2年間に比べると今年度は前向きな変化がありました。大学の講義も対面となり、久しぶりに学生たちがキャンパスに戻ってきています。第2タームの学外学修プログラムも、連携企業等の皆さんにご協力いただきながら対面で実施することができました。オンラインの利点もありますが、やはり学生たちが実際に集まって活動すると熱量が違うことを実感しました。

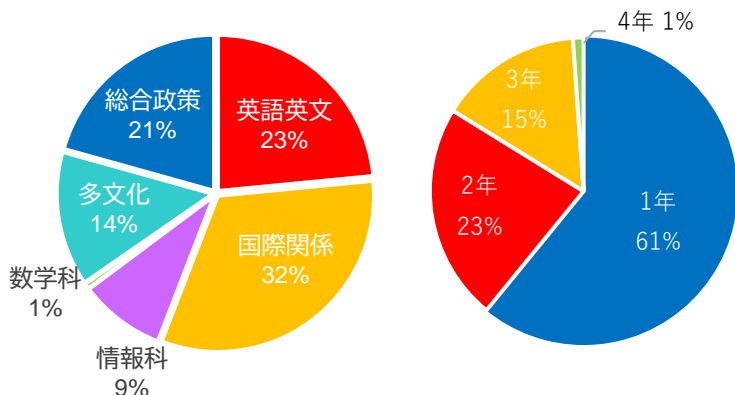
今年度は約320人の学生たちが様々なプログラムに参加しました。地域活性化、アプリ開発、ワークライフバランス、映像翻訳など、取り組むテーマも多岐にわたり、グループワークにも活気がありました。また、今年度は卒業生の皆さんから多くのサポートを得られた年でもありました。現役の新聞記者から国際情勢を学ぶ機会や先輩が働いている企業でインターンをするなど、津田塾の卒業生ネットワークを通じて在校生たちの学びを深められたことを嬉しく思います。

海外での学びについても、まだ制限がありながらも数名が語学研修やボランティア参加することができました。来年度はもっと多くの学生たちが渡航できることを願っています。

今年度も多くの企業のご関係者やOGの皆さんにご協力いただき、感謝申し上げます。これからも学生の成長意欲に火をつけ、彼女たちが変革を担う女性たちになれるよう、センター一同努力を続けて参ります。

## 第2タームプログラム実施報告

### プログラム・講座参加者内訳（6講座・179名）



学外学修センター主催のプログラムを6講座開講し、合計179名が参加しました。1年生の参加が非常に多く、全体の61%となりました。

このほかにOGの堀山さんによる特別講座、学生生活課と共同開催による「ワタシの未来発見ワークショップ」、学生生活課によるキャリア教育支援A 就業力基礎講座「サステナビリティとこれからの企業」、自己開拓プログラムに参加し履修申請した学生も合わせると、合計327名がこの夏、学外学修センターが関わるプログラムに参加したことになります。

# プログラム概要

## JALスタッフと考える地域の魅力

日本航空が推進しているJALふるさとプロジェクトなどの地域活性化事業について学び、同社スタッフとともに地域の魅力を伝えて絆を深めるプランを構想。3回対面で20名が参加。3年ぶりに羽田の整備場見学も行った。



・航空会社が地域の方や地元会社の方と繋がりを作っていくことの大変さややりがいについて学んだ。課題に沿った提案を考えるのがとても難しいと感じた (国際4年)

## 富士通クラウドテクノロジーズ インターンシップ

クラウドサービスやAI活用による事業を展開する富士通クラウドテクノロジーズ(FJCT)による、アプリの企画・開発を体験する5日間のインターンシップ。8名がオンラインで参加。開発ツールを使ってアプリを実際に開発し、FJCT社へ企画の発表、提案を行った。



- ・大学の授業でやったことを思い出し使えるようになった (情報2年)
- ・IT業界での働き方について理解を深めることができ、興味をもつようになった (国際3年)
- ・開発環境を整えることの大変さや、チームでの共同開発を通してグループワークの進め方についても学ぶことが、自分が苦手としていたチームでの作業に対する考え方を考えることができた (情報1年)

## パナソニックグループ・インターンシップ

「多様な働き方を考える」「人を活かす」をテーマに、海外事業や地方創生等のパナソニックグループの様々な事業について学ぶ。学生はグローバル事業部門等の各部署にて業務を体験させて頂き、ビジネススマナリーやプレゼンテーションについての講座も受講。6名が参加。



実践インターンシップ対象

- ・実際の事業に関わらせていただけたということがとても楽しかったです。また、自分の目標や興味に沿った仕事を任せてくださり、興味の分野がより深まった (総合1年)
- ・社会貢献とビジネスは相乗関係にあるということが分かった。ビジネスという一面があるからこそ大きなお金が動いて支援が充実するし、支援が充実するからこそたくさんの方が集まってビジネスもうまくいくといった相乗関係があるということが理解できた (国際3年)

## ワーク&ライフ インターン LVMH社連携

キャリアとライフの両方の側面から将来を真剣に考えるワークジョブ形式のプログラム。両立する家庭の方のリアルなお話を聞き、お子さんと関わることで、自身の将来についてリアルに考える。今年度は世界的ラグジュアリーブランドのLVMHパフューム&コスメティックスとの連携が実現。10名が参加。



実践インターンシップ対象

- ・自分の将来に対しポジティブなイメージを持つことができた。やりたいことや価値観は変わってもよいのだと教わり、将来に不安を抱くよりも今の自分を大切にすればよいと分かった (多文化1年)
- ・今から将来のなりた姿を決めつける必要はなく、色々な経験を経て考えていくべきと感じた。ペアとの話し合いを通して自分が人生で何を大切にしているかや自分の意外な長所を発見できた (英文1年)

## 映像翻訳ワークショップ

アメリカ在住でNETFLIXなどで映像翻訳や字幕編集を担当するアーキン由起子さんから、映像翻訳の手法やエンターテインメント業界の仕事について学ぶ1日講座。

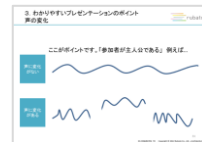
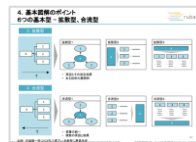
翻訳業務体験を通して原文の解釈力や読みやすい日本語を書くためのコツを学び、翻訳者や作品制作に携わる人の仕事を知る。



- ・外国語を学ぶことも大切だが、母国語を常に向上させていく必要があるのだと学んだ。登場人物や社会情勢についての知識も必要で、翻訳家はただ訳す力があるだけでは仕事にならないと学んだ。
- ・指示書をちゃんと確認して内容通りの仕事ができるか、話し手の人物の特徴や背景を調べるなど、日本語の語彙力をあげることも字幕や翻訳をする以前に下準備がいかに重要であるかを痛感しました。
- ・アーキンさんの仕事に対する姿勢から、何事にも積極性と、自分が持っている最大限の力で取り組むことが大切であると学びました。

## 初めてのプレゼン資料作成講座

パワーポイントで作るプレゼン資料とプレゼンスキルを学ぶオンライン講座。ロジカルにストーリーを組み立てて簡潔にまとめ、一目で理解可能な資料、魅力的なプレゼンを行う方法についてのプロの講師から学んだ。2日目は3名の学生が実際に全体に対してプレゼンを行い、講師と他の学生からフィードバックを受け学びを深めた。



- ・今まで自己流でスライドを作っていたので、他人に視覚的に訴える作り方が非常に勉強になりました。ストーリーラインなど、今までの自分が意識していなかった部分について気づかされました。
- ・1日目に学んだ知識をもとに実際にプレゼンを作って、2日目に実際にプレゼンを実践できるというのがとてもよかったです。
- ・今まで「対象を絞る」ということを全く意識していなかった。相手はどんな情報が欲しくて何を伝えるべきかを取捨選択していきたい。

## 5月25日 特別講座

## 「国際情勢とマスメディアの役割」

本学卒業生で毎日新聞外信部デスクの堀山明子さんによる特別講演会。

報道の最前線で活躍されている視点から、朝鮮半島情勢をはじめ、揺れ動く世界をマスメディアはどのように伝えるべきか、また、これからのマスメディアの在り方をテーマにお話しいただきました。



ファクトチェックの際に自分の主張と事実を分けて考えるべきだというお話が印象に残りました。現在のロシア・ウクライナの情勢の中で疑問に思っていたことを知ることができ勉強になりました。(多文化3年)

将来メディアや国際関連の職業に興味を持っているので今回の講座はとても勉強になりました。社会課題を多角的な視点で捉えることの大切さや情報が常に正しいか判断する大切さを学びました。(総合1年)



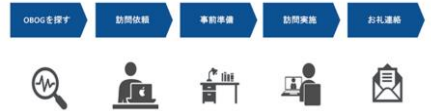
◀ 実施レポートはこちらから

## ワタシの未来発見ワークショップ



昨年実施したワークショップが好評につき、より内容を充実させて今年度は第2タームに開催。今回は19名の本学OGにもご参加頂きました。OGとの対話を通してセルフブランディングと伝える力を磨くワークショップ。2日間の活動日の間には各自「ビズリーチキャンパス」でOG訪問を行いました。また、交流会を開催し、チーム内でお互い相談したりアドバイスし合う機会となりました。

4週間で9人のOG  
に会えた学生も!



## 就業力基礎講座

## 「サステナビリティとこれからの企業」

「サステナビリティ」をテーマとし、専門家によるレクチャー及び企業のCSR担当者を講師にお招きした講座を実施しました。



◀ 実施レポートはこちらから

JTP株式会社にて、エンジニア補佐職としての  
インターンシップに3名の津田塾生が参加しました。

人事部マネージャーで本学OG吉田様より

この夏初めて、当社JTP株式会社は、津田塾生のみなさんをインターンシップ生としてお迎えすることができました。

今回のご縁は、卒業生として昨年から関わらせていただいた「ワタシの未来発見ワークショップ」のなかで、「学外学修センター」を知ったのがきっかけでした。大学1年時より「学外での多様な経験を通じ、自分らしいこたえを見つけて成長していけるよう支援する」目的に感銘を受け、微力ながら当社もご協力したいとの想いから、当社のインターンシップを提案させていただきました。

当社は、現在80%以上の社員がリモートワークで、男性社員の育休取得率も80%以上となっています。男女問わず働きやすく、さまざまなライフイベントの際もしなやかにキャリアを築いています。そんな当社だからこそ、変化に対応し国際的に社会貢献できる女性を目指すうえで、女性の働き方について考える機会としても、当社でのインターンシップを選んでいただけたとうかがっております。



今回のインターンシップでは、AIソリューション開発業務に参画いただき、実業務に2週間取り組んでいただきました。

当社では「インターンシップ実施の目的は、当社への就職にこだわらず、文理問わずIT企業の実務を経験し、就活を成功させてもらうため」と方針を出しており、今回の実習でも、社長より「インターンシップを通じて、自分が『したいこと』『したくないこと』を見つけたい」と伝えさせていただきました。

業務の1日はオンラインでの英語朝礼で始まります。社内には11カ国の海外出身社員がいるためです。インターンシップ生も、自己紹介を英語で実施し、拍手喝采でした。配属部門での業務体験や社員との座談会にも参加いただきました。当社の業務を通じて多様な価値観に触れていただけたと思っております。「インターンシップに参加する前は、座談会で社員にどのようなことをきけばよいのかわからず苦手意識があったけれど、今回多くの先輩社員と話すきっかけを持つことで、苦手意識が減った」というお声もきけて、ホッとしております。インターンシップ生とお話することで、社員自身もいろいろと気づくことがあり、ありがたい機会となっています。(私は津田のワークショップを通じ、後輩のみなさんからEmpowerいただきマネージャーに立候補しました)

私も津田を卒業してしばらく経ちますが、今回母校の学生さんをお迎えできたこと、とても嬉しく思っております。

## 8月14日（日）オープンキャンパス@小平キャンパス

小平キャンパスで行われた夏のオープンキャンパスにて、「学外学修のススメ」と題して学外学修センターの活動紹介と学生の成果報告会を実施しました。

午前・午後の各回でそれぞれ60名以上の高校生と保護者の方にご参加頂きました。午後は4人の学生が発表し、コロナの制約があるなかでも積極的に活動して学んだことや、先輩になるかもしれない「未来の津田塾生」に伝えたい思いを話してくれました。約10週間の「ギャップタム」期間に国内外で様々な活動に参加して学ぶことができるのは、本学の特色とひとつとなっています。高校生にも興味深く聞いていただけている様子でした。



### 学外学修センターからのお知らせ

#### 学外学修に参加した学生による 報告会を開催します 11月15日・11月17日

主に今年の第2タムと夏休みの「ギャップタム」に学外学修に参加した学生による報告会を在校生に公開して実施し、体験談として共有します。春休みや来年度インターンシップ・ボランティア等への参加を考えている方は参考にぜひご参加ください。



詳細はTsudaNet、学外学修ポータルサイト等で周知します。

#### SDGsテーマ映画「cinema de 学外学修」

皆様にご利用いただいていた『cinema de 学外学修』ですが、運営会社の都合により、2022年9月30日をもってサービス提供終了となることとなりました。学外学修センターでは、今後も皆様の学びにつながるコンテンツを提供できるよう検討を重ねていきたいと思っております。



### 【学外学修センター利用案内】

#### ◆在校生専用ポータルサイト

TsudaNet画面下部のバナーからアクセスできます。プログラム情報、学外学修の手続き、最新情報を随時掲載しています。



#### ◆Facebookページ

学外学修センターの活動報告や、講座・イベントの実施レポートなどを投稿しています。活動内容やプログラムの実施状況、様子を知りたい方はぜひフォローしてください！

<https://www.facebook.com/tsudaoffcampus>



#### ◆メーリングリスト

プログラム情報やセンターからのお知らせをタイムリーに配信しています。新規の募集告知はもちろん、追加募集や募集期間延長などもメーリングリストでお知らせしています。

登録はこちらから↓



#### 学外学修センター 窓口について

場所：小平キャンパス本館1F/H120  
開室時間：9:00-16:30（お昼休11:15-12:15）  
※新型コロナウイルスの影響で短縮している場合があります。

問合せ・面談希望：問い合わせフォーム（右記QRコード）からお問合せください。



▲問合せフォーム

面談は基本オンラインで実施しますが、対面をご希望の場合は同じくフォームからお申込みください。千駄ヶ谷キャンパスも同様です。

